

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172200343		
法人名	医療法人社団 崇仁会		
事業所名	グループホーム天の花 A		
所在地	岐阜県海津市平田町仏師川461番地		
自己評価作成日	令和6年3月7日	評価結果市町村受理日	令和6年5月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/21/index_nhp?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyouvoCd=2172200343-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和6年4月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>天の花は、医療と介護など専門職員がお互いに協力し、利用者が安心して暮らせるよう日々努力しています。カンファレンスも定期的開催し情報共有に努めています。 看護師も常駐し、在宅医療専門医が往診に来ていただけるため、医療的管理が必要な方も安心してご利用いただけます。 暮らし慣れたところで最期の時を過ごせるような場所でありたいと考えています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>母体は医療法人社団であり、毎月、代表が医療と介護の両面からの支援について、全職員対象の研修を実施している。多くの職員が有資格者であり、嗜好吸引研修を受講した職員も多く、医師と看護師と連携しながら、事業所で出来る範囲の支援を行いながら、利用者が安心して生活できるよう体制を整えている。利用者個々の「生活習慣」、「生活のリズム」を大切に、本人の喜びや達成感に繋がるよう主体的な活動が行えるよう支援している。職員の働き方改革、職場の良好な対人関係の構築で、勤続年数の長い職員が多い事業所である。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
43 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
46 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53 職員は、活き活きと働けている (参考項目:10,11)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果(A)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日のフナクリ理念の唱和と1日の出来事の共有をしています。 また、何かあれば早急に報告・連絡し引継ぎを心掛けています。 毎月、理念に対して再認識しています。	法人の目標、グループホームの理念を職員の目のつきやすい場所に掲示し、日々、確認している。利用者が住み慣れた地域で、地域住民と交流しながら、楽しい日々が過ごせるよう支援を振り返り、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	祭り・一斉清掃など地元の行事がコロナ明けで行われ、利用者も地域の活動に参加し、つながりながら過ごせるようになった。	自治会に加入し、地域からの情報が届いている。保育園、小・中学校との交流等、地域で多くのつながりを大切に実践している。また、特別支援学校の生徒の職業体験受け入れを実施し、就労が実現している。	事業所として、地域住民と利用者の交流機会を作っている。事業所の役割り、地域の協力体制作りなどを進めながら課題を検討、福祉の充実を目標に取り組みしており、地域の一員として、さらなる強化に期待したい。
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	天の花としての取り組み、事故報告、実地指導の報告など公表しています。 天の花便りも継続して、郵送して活動報告も行っています。	隔月に開催する運営推進会議は、行政、自治会、民生委員等で構成され、家族の参加も多い。民生委員から、地域高齢者の情報や相談を受けている。参加者に、会議の中で車椅子の実体験から利用者の思いを知ってもらうなど、事業所の役割りや取り組みを運営推進会議で伝えている。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	認知症施策推進、海津市地域在宅医療連携事業、オレンジカフェ連絡会、キャラバンメイト連絡会など海津市の担当者と常に情報や取組みを情報共有しています。	市や多くの機関と連携しながら、小学校や地域に向けて、介護や認知症の理解等の啓発活動に取り組んでいる。毎月、オレンジカフェを開催し、地域に開かれた交流の場を提供するなど、行政と協力関係を築いている。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を継続して行っています。 5年目に入り、充実し色々話せる委員会となりました。	併設のデイサービスと共に、身体拘束廃止に向けた体制を作り、身体拘束廃止委員会を定期的に開催している。また、改善のための職員教育・研修も行なっている。年間学習の課題を設定し、拘束ゼロの支援を実践している。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に観察を行い、普段から皮膚の状態は良く観ています。お風呂時や更衣時にもしっかり観察できていると思います。内出血や皮膚剥離などがあれば速やかに報告できています。日常の介助方法も見直しています。	虐待防止委員会を定期的に開催している。日々の利用者支援の中で、身体観察等を細かく行い、虐待予防、防止に取り組んでいる。管理者、施設長等が、職員とのコミュニケーションを心がけ、不安や悩みをキャッチしながら虐待防止に努めている。	

岐阜県 グループホーム天の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修会に参加し、研修報告として会議の中で共有しています。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行い同意を得ていますが、遠方のご親族の方から苦情や問い合わせがくることも多いです。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段から家族の面会時に利用者からの意見や要望を伝えています。同時に家族からも意見を聞き、リーダーから各スタッフへ伝えています。	定期的に法人全体のニュースや「グループホーム天の花」を家族に送付している。利用者の健康状態、変化があれば速やかに連絡し家族と情報を共有している。家族の訪問時には、意見や要望などを聞きながら信頼関係を深め、より良い運営に繋げている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1回/月のカンファレンス会議以外に個人面談を実施しています。現場の声に耳を傾けること重要と考えています。	管理者は、日々、職員とコミュニケーションを図るよう努めている。現場の声を尊重し有意義な運営につながるよう環境作りを行っている。研修の機会を多く設け、専門職としてのモチベーションを高めながら、信頼関係を築いている。職員の勤続年数も長い。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	各職員がやりがいを持って楽しく働ける職場作りになるような内部研修や就業環境の整備に努めています。	法人全体で就労環境が整備され、安心して働ける環境を整えている。休憩時間は、利用者から離れた場所でゆったり過ごすことが出来る。職員一人ひとりのワーク・ライフ・バランスにも配慮しながら、福祉の担い手の育成に取り組んでいる。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に声をかけ不安やストレスはないかを確認しています。表情や勤務姿勢など常に観察し、面談を行っています。研修は積極的に参加できるよう勤務調整しながら行っています。	事業所は、職員の資格取得を奨励しており、有資格者が多い。職員の勤務シフトを調整しながら、研修受講に繋げている。職員の日々の様子や表情を見ながら、健康状態や精神状態にも気を配り、面談も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターや社会福祉協議会の方と認知症養成講座を通じて交流をしています。 また、グループホーム協議会や各連絡会などの研修会に参加し、意見交換の場になっています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	普段の生活の中で、なじみの関係性が出来るよう支援しています。いつもと変わらない関わりの中で業務的な関わりをしないよう心がけています。 逆に馴れ馴れしすぎる対応も配慮しています。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思いを把握して、なかなかご本人の希望に沿ったケアは行えていないように思います。そのひとらしい暮らしの実現をめざしひとりひとりに話しています。	入居前のアセスメントを参考に、利用者の状態を確認している。入居後は個別支援の中で思いや意向を把握し、出来る限り利用者の希望が実現できるよう支援している。また、日常会話の中で、少しでも笑顔を引き出せるよう寄り添っている。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	運営推進会議やご家族様の面会時などに近況報告し話し合いの場を設けるようにしています。 また、現状で出来るケアや今後、起こりうるリスクについてもお話するようにしています。	介護計画作成会議を開き、医師の意見を参考にしながら意見交換を行っている。家族の訪問時や運営推進会議の際にも、家族の意見や希望を聞き、日常の様子をできる限り家族に伝え、理解を得た上で介護計画作りを行っている。	介護計画作成会議は、家族と共に利用者の状態を見ながら、介護計画を作成する機会と捉えたい。家族とのコミュニケーションの場でもあり、今後、家族参加での開催に期待したい。
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	タブレットにその日の様子を記入しています。iPadをみれば分かるよう工夫しています。また、毎朝、ミニカンファレンスを実施し日々の実践に生かしています。	個別記録は日々、タブレットに記録し、いつでも確認することができる。利用者の状態が変化した場合は、直接、口頭でも伝え、ケアの見直しをしている。記録は職員間で共有し、介護計画に反映させている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人のニーズに対応できるような工夫をしています。しかし、なかなか柔軟な対応が出来ていないのが現状です。多機能的な関わりが課題です。	法人内には様々な支援事業所や機関があり、必要時には医師の指導の下で柔軟に対応することができる。買い物、衣類の入れ替えなどは家族に依頼しているが、対応できない時は、職員が家族と相談して柔軟に対応している。	

岐阜県 グループホーム天の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々や児童や生徒さんとのふれあいを積極的に取り組むことで社会交流が図られています。近隣の図書館・文化祭・お千代保さん・左義長など地域の施設や行事に参加しています。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の存在は大きく利用者様の安心に繋がっています。希望された時や必要に応じた医療が受けられるよう配慮しています。	契約時に、かかりつけ医についての説明を行い、家族が選択をしている。ほとんどの利用者が協力医を選択し、法人の医師の往診を受けている。看護師である職員と訪問看護ステーションが連携し、医療の連絡体制を整えている。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された場合は定期的にお見舞いに行き、病棟看護師や看護師長との連携を図っています。また、看護要約などの情報提供を行い、切れ目のない関わりが出来るよう心がけています。	入退院時の医療機関との対応は、家族と相談しながら、施設長と看護師が窓口になり、関係者と情報交換を行っている。その都度、家族に連絡し対応をしている。出来るだけ早期に退院できるよう動き、職員に情報を伝えながら、受け入れ体制を整えている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度の方や看取り体制に入られる方に関しては本人、ご家族と十分な話し合いの場を持ち、お互いが納得、同意できるよう説明しています。ご本人の安楽を優先して考えています。	契約時に事業所の指針を説明し、利用者家族の同意を得ている。利用者の状態変化時には、早い段階で関係者が話し合い、方針を共有している。看取り期はチームで支援をし、機械浴の入浴も希望に応じながら、質の高い支援に努めている。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	窒息などの事故や急変が起きた場合には速やかに対応⇒報告が出来るよう心がけています。また、カンファレンスなどで急変時の対応の勉強会を開いています。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を実施しています。夜間想定も実施しました。災害時の行動の想定なども話し合い進めていきます。	夜間想定を含め、年2回の災害訓練を実施している。職員は日頃から自分の役割を認識し、地震、水害対策について話し合い、地元の防災訓練にも参加し、近隣との協力体制も出来ている。現在、災害時の自家発電機設置を計画している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	何気なくかける言葉のきつさや相手を傷つける言い方には注意していますが、プライバシーを損ねかねない場面も見受けます。みんなで確認し、注意しあえる関係作りも必要だと思っています。	利用者の人格尊重、個人情報保護、プライバシーの確保等、職員研修の重要な基本テーマとして学び、取り組んでいる。職員間で互いに注意し合いながら適切な支援を心がけ、排泄や入浴介助では、特に羞恥心にも配慮しながら支援している。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人のニーズを日常生活会話からさりげなく聞き出し、ケアプランに載せて実行できるよう工夫しています。自己決定できる環境作りも大切だと感じています。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムに合わせたケアを心がけていますが、職員側の都合で支援してしまう時があります。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の好みなどは、事前にアセスメントし提供していますが、ADLの低下で食事形態を変更しています。厨房での調理のため片付けを手伝っていただいています。	食事は、隣接するデイサービスの厨房で調理され、利用者の状態に合わせた食事形態で提供している。利用者はできる範囲で、あと片付けなどに関わっている。利用者は、職員と共におやつを作ったり、巻き寿司作りなどを楽しんでいる。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医療的な管理のもと、食事量・水分量を個別に配慮しています。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の生活習慣に合わせて、フロア内や居室での口腔ケアの実施はできています。必要に応じて訪問歯科の利用が行えます。	定期的に、口腔ケアについての勉強会を行っている。自分で出来る人は見守りで支援し、難しい人は、補助しながら実施している。各居室に洗面台があり、毎食後の歯磨きの励行を促し、口腔内の清潔保持に努めている。	

岐阜県 グループホーム天の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	身体機能を評価して、可能な限りトイレでの排泄を促しています。排泄チェック表を活用し、排泄パターンの把握に努めています。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	本人の生活リズムなどに配慮しバイタルサインの測定値を確認・ヒアリング等による体調確認、意向確認を行い入浴しています。曜日を決めて温泉にも入ってもらい楽しい時間作りに努めています。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息、就寝は本人の思いを確認しながら行っています。生活リズムを整える方、起きていると負担のある方に関しては、離床や休息を促しています。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は、看護師にて行っています。服薬に関しては、準備された薬を2名の介護職員が氏名・服用時間を確認し予薬を行っています。薬の影響・副作用など理解が必要なため看護師から説明を受けています。	服薬管理は、常駐の看護師が行い、薬の内容、影響などを全職員に説明し全員が理解している。服薬支援時には複数で確認し、飲み終わるまでの見守りと確認を徹底している。薬の変更時には、看護師が職員に詳細な説明を行っている。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や趣味などを把握して出来ることなどをアセスメントし、行ってもらっています。日常生活の中で出来ないことは、さりげなく職員が行い、不快のないよう努めています。	利用者の生活歴を把握し、これまでの経験や得意な事を活かせるよう支援している。利用者が楽しみながら、自信と喜びを実感できる機会を作り、笑顔を引き出している。職員も感謝の気持ちと労いの言葉をかけ、継続できるよう支えている。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望により散歩等出来るだけ行うよう支援しています。家族が来所され外食や中央ホールでの団欒での食事など施設をオープンにしてその人の思いに寄り添える支援をと努めています。	天候や利用者の体調を見ながら、外出支援を行なっている。日常的には近隣の散歩が主となっているが、時には散歩の途中に保育園の園児と交流したり、地域の住民と会話している。花見などの年間外出計画もある。家族と外出する利用者もある。	

岐阜県 グループホーム天の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所にあたり、今までお金を所持していた利用者が突然お金が持てないことは、とても辛いとです。 その人に応じて金銭を管理してもらっています。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて随時対応しています。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先に季節感が味わえる物や飾り物そしてアロマオイルで臭覚の刺激。 利用者が心地よく暮らしてもらえるよう心がけています。	地元の木材で作られ、個性的で温もりのある建物である。玄関には季節の花や置物を飾り、家庭的で落ち着いた雰囲気が感じられる。共用の空間は広く、廊下も安心・安全に移動が出来る。利用者と職員が共同で作上げた作品を掲示し、居心地よい空間作りがされている。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者が心地よく過ごしてもらえる環境作りを心がけています。また、気の合った利用者同士で会話ができる場の提供に努めています。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、本人や家族の思いで馴染みのある物を持ってきてもらい落ち着ける空間作りができるよう心がけ工夫している。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その方の残存能力をアセスメントして安全・安心に日常生活が送れるよう支援しています。 季節感の味わえる花や飾り物や食物も施設周りに植え実を収穫してもらっています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172200343		
法人名	医療法人社団 崇仁会		
事業所名	グループホーム天の花 B		
所在地	岐阜県海津市平田町仏師川461番地		
自己評価作成日	令和6年3月7日	評価結果市町村受理日	令和6年5月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	令和6年3月27日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働いている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果(B)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日のフナクリ理念の唱和と1日の出来事の共有をしています。 また、何かあれば早急に報告・連絡し引継ぎを心掛けています。 毎月、理念に対して再認識しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	祭り・一斉清掃など地元の行事がコロナ明けで行われ、利用者も地域の活動に参加し、つながりながら過ごせるようになった		
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	天の花としての取り組み、事故報告、実地指導の報告など公表しています。 天の花便りも継続して、郵送して活動報告も行っています。		
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	認知症施策推進、海津市地域在宅医療連携事業、オレンジカフェ連絡会、キャラバンメイト連絡会など海津市の担当者と常に情報や取組みを情報共有しています。		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を継続して行っています。 5年目に入り、充実し色々話せる委員会となりました。		
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に観察を行い、普段から皮膚の状態は良く観ています。お風呂時や更衣時にもしっかりと観察できていると思います。内出血や皮膚剥離などがあれば速やかに報告できています。日常の介助方法も見直しています。		

岐阜県 グループホーム天の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修会に参加し、研修報告として会議の中で共有しています。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行い同意を得ていますが、遠方のご親族の方から苦情や問い合わせがくることも多いです。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段から家族の面会時に利用者からの意見や要望を伝えています。同時に家族からも意見を聞き、リーダーから各スタッフへ伝えています。		
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1回/月のカンファレンス会議以外に個人面談を実施しています。現場の声に耳を傾けること重要と考えています。		
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	各職員がやりがいを持って楽しく働ける職場作りになるような内部研修や就業環境の整備に努めています。		
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に声をかけ不安やストレスはないかを確認しています。表情や勤務姿勢など常に観察し、面談を行っています。研修は積極的に参加できるよう勤務調整しながら行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターや社会福祉協議会の方と認知症養成講座を通じて交流をしています。 また、グループホーム協議会や各連絡会などの研修会に参加し、意見交換の場になっています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	普段の生活の中で、なじみの関係性が出来るよう支援しています。いつもと変わらない関わりの中で業務的な関わりをしないよう心がけています。 逆に馴れ馴れしすぎる対応も配慮しています。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思いを把握して、なかなかご本人の希望に沿ったケアは行えていないように思います。そのひとらしい暮らしの実現をめざしひとりひとりに話しています。		
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	運営推進会議やご家族様の面会時などに近況報告し話し合いの場を設けるようにしています。 また、現状で出来るケアや今後、起こりうるリスクについてもお話するようにしています。		
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	タブレットにその日の様子を記入しています。 iPadをみれば分かるよう工夫しています。また、毎朝、ミニカンファレンスを実施し日々の実践に生かしています。		
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人のニーズに対応できるような工夫をしています。しかし、なかなか柔軟な対応が出来ていないのが現状です。多機能的な関わりが課題です。		

岐阜県 グループホーム天の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々や児童や生徒さんとのふれあいを積極的に取り組むことで社会交流が図られています。近隣の図書館・文化祭・お千代保さん・左義長など地域の施設や行事に参加しています。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の存在は大きく利用者様の安心に繋がっています。希望された時や必要に応じた医療が受けられるよう配慮しています。		
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された場合は定期的にお見舞いに行き、病棟看護師や看護師長との連携を図っています。 また、看護要約などの情報提供を行い、切れ目のない関わりが出来るよう心がけています。		
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度の方や看取り体制に入られる方に関しては本人、ご家族と十分な話し合いの場を持ち、お互いが納得、同意できるよう説明しています。 ご本人の安楽を優先して考えています。		
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	窒息などの事故や急変が起きた場合には速やかに対応⇒報告が出来るよう心がけています。また、カンファレンスなどで急変時の対応の勉強会を開いています。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を実施しています。 夜間想定訓練も実施しました。 災害時の行動の想定なども話し合い進めていきます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	何気なくかける言葉のきつさや相手を傷つける言い方には注意していますが、プライバシーを損ねかねない場面も見受けられます。みんなで確認し、注意しあえる関係作りも必要だと思っています。		
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人のニーズを日常生活会話からさりげなく聞き出し、ケアプランに載せて実行できるよう工夫しています。自己決定できる環境作りも大切だと感じています。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムに合わせたケアを心がけていますが、職員側の都合で支援してしまう時があります。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の好みなどは、事前にアセスメントし提供していますが、ADLの低下で食事形態を変更しています。厨房での調理のため片付けを手伝っていただいています。		
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医療的な管理のもと、食事量・水分量を個別に配慮しています。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の生活習慣に合わせて、フロア内や居室での口腔ケアの実施はできています。必要に応じて訪問歯科の利用が行えます。		

岐阜県 グループホーム天の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	身体機能を評価して、可能な限りトイレでの排泄を促しています。排泄チェック表を活用し、排泄パターンの把握に努めています。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	本人の生活リズムなどに配慮しバイタルサインの測定値を確認・ヒアリング等による体調確認、意向確認を行い入浴しています。曜日を決めて温泉にも入ってもらい楽しい時間作りに努めています。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息、就寝は本人の思いを確認しながら行っています。生活リズムを整える方、起きていると負担のある方に関しては、離床や休息を促しています。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は、看護師にて行っています。服薬に関しては、準備された薬を2名の介護職員が氏名・服用時間を確認し予薬を行っています。薬の影響・副作用など理解が必要なため看護師から説明を受けています。		
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や趣味などを把握して出来ることなどをアセスメントし、行ってもらっています。日常生活の中で出来ないことは、さりげなく職員が行い、不快のないよう努めています。		
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行かないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望により散歩等出来るだけ行うよう支援しています。家族が来所され外食や中央ホールでの団樂での食事など施設をオープンにしてその人の思いに寄り添える支援をと努めています。		

岐阜県 グループホーム天の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所にあたり、今までお金を所持していた利用者が突然お金が持てないことは、とても辛いです。 その人に応じて金銭を管理してもらっています。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて随時対応しています。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先に季節感が味わえる物や飾り物そしてアロマオイルで臭覚の刺激。 利用者が心地よく暮らしてもらえるよう心がけています。		
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者が心地よく過ごしてもらえる環境作りを心がけています。また、気の合った利用者同士で会話ができる場の提供に努めています。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、本人や家族の思いで馴染みのある物を持ってきてもらい落ち着ける空間作りができるよう心がけ工夫している。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その方の残存能力をアセスメントして安全・安心に日常生活が送れるよう支援しています。 季節感の味わえる花や飾り物や食物も施設周りに植え実を収穫してもらっています。		